

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 1月稚魚調査 速報

### ●実施状況

令和4年1月4日に稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温は8.3~13.0°Cであった。調査地点の風は、お台場海浜公園と葛西人工渚では南寄り0.3~0.7 m/sと弱かったものの、城南大橋では北寄り3.0 m/sとやや強かった。調査当日は大潮で、干潮は12時05分、満潮は17時15分であった(気象庁のデータ)。

葛西人工渚と城南大橋ではアユやミミズハゼ属の仔稚魚が確認された。また、お台場海浜公園では採取された魚種は少なく、確認されたのはアシシロハゼのみであった。

	お台場海浜公園	葛西人工渚	城南大橋
作業時刻	9:09~10:03	10:38~12:10	13:01~13:50
水温(°C)	9.3	12.5	12.2
塩分(–)	25.1	30.7	22.0
透視度(cm)	91.0	>100	>100
DO(mg/L)	6.6	8.2	7.1
DO飽和度(%)	68.9	93.0	76.2
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(–)	7.7	8.0	7.4
水の臭気	無臭	無臭	弱下水臭
備考			

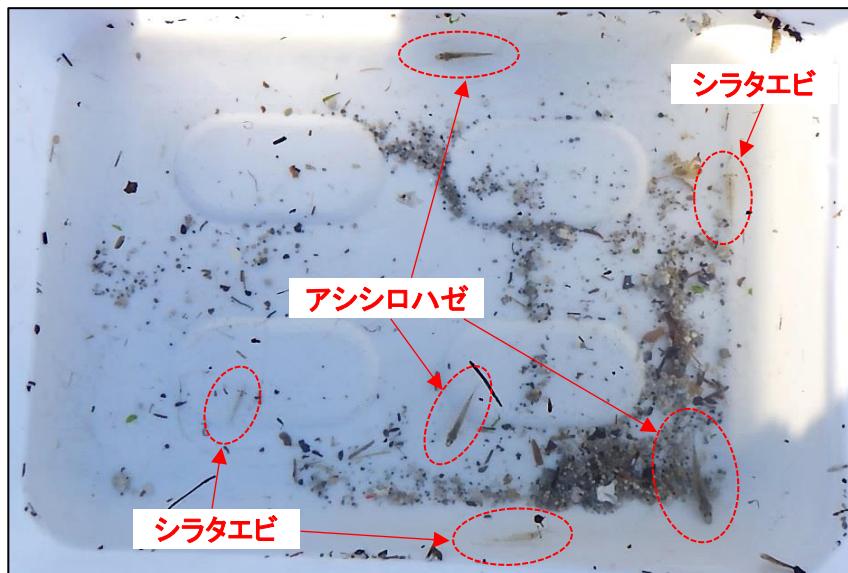
### ●主な出現種等（速報のため、種名等は未確定）

主な出現種等	お台場海浜公園	葛西人工渚	城南大橋
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	アシシロハゼ(r)	アユ(c)	マゴチ(r)
		アシシロハゼ(+)	アユ(r)
		チクセンハゼ(r)	ニクハゼ(r)
		エドハゼ(r)	ミミズハゼ属(r)
		ミミズハゼ属(r)	ダイナンギンポ属(r)
魚類以外	シラタエビ(+)	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(m)
	ニホンイサザアミ(r)	クロイサザアミ(m)	エビジャコ属(r)
	クロイサザアミ(r)	シラタエビ(+)	
備考		上記の他、ボラ、アキアミが確認された。	

注) 表中の( )内の記号は大まかな個体数を表す。

r:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

# お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる人工の渚。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



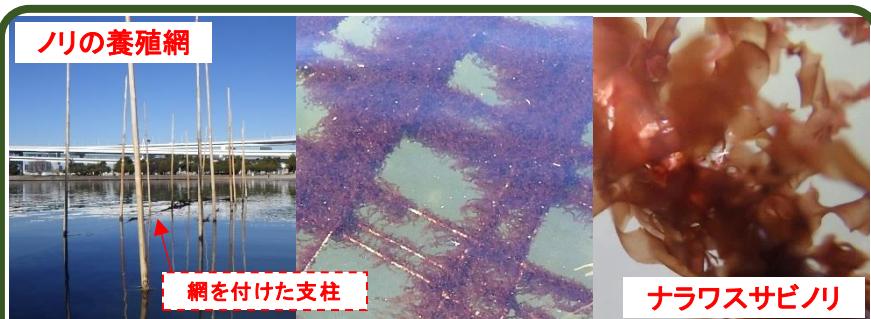
体長 5 cm 程になる。うろこがやや粗く、成熟した個体の体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口付近の石や貝殻の下面に産卵する。春の干潟域に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。

汽水域に生息する、体長 7cm 程になるエビ。青く長い触角を持ち、額角(がっかく)がトサカ状に盛り上がる。上の個体は触角が切れてしまっていた。

汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口付近で春に大量発生し、魚類等の重要な餌となっている。クロイサザアミはニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。



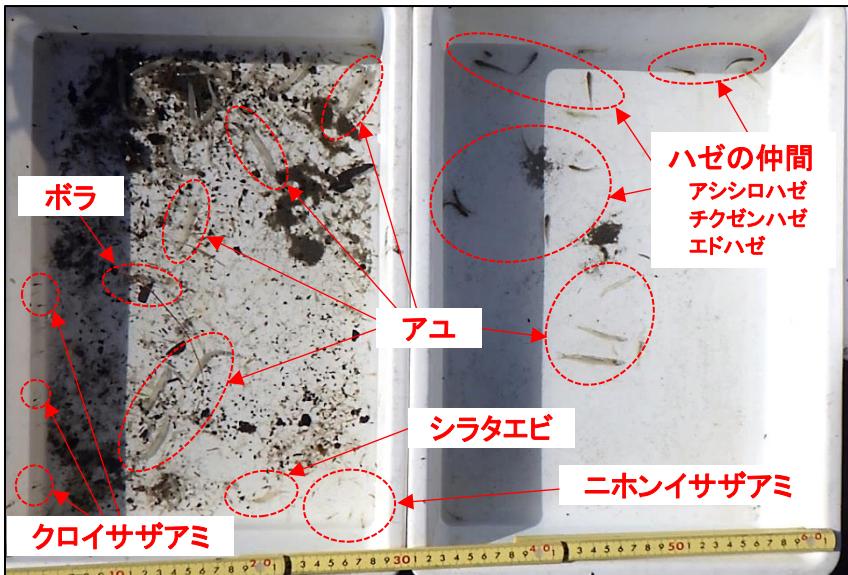
魚に寄生するカイアシ類。魚の体表に取り付き、血液を吸って栄養とする。種によって特定の魚種にのみ寄生するものと、様々な魚種に寄生するものがあるが、ヒトには寄生しない。



## 【調査対象外】

調査地点付近に近隣の学校の学習のためのノリ網が設置されていた。江戸時代から東京湾ではノリの養殖が盛んであったが、戦後に埋め立てが進み、現在の東京ではほぼその姿を見られなくなった。

# 葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

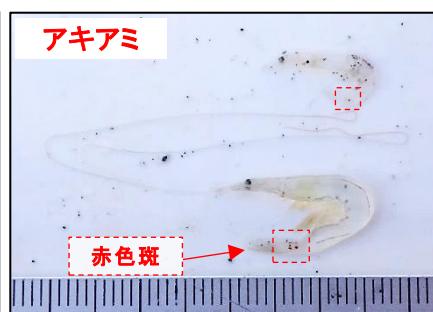
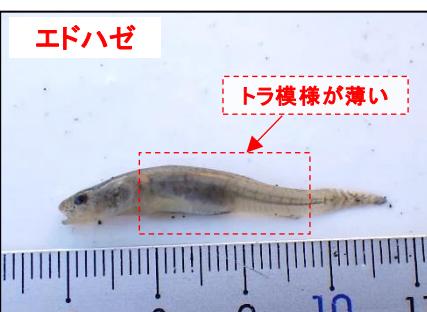
## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、10日～2週間後に孵化する。仔魚は干潟周辺で3～4cmになるまで滞在し、その後、河川を遡上する。海で生活する間は体の透明感が強い。

ミミズハゼ属の仔魚。腹側に黒色素が密集しているのが特徴。河川の下流域から海域の潮間帯に生息し、礫や石の下に潜み、ミミズのようにによろよろと動く。

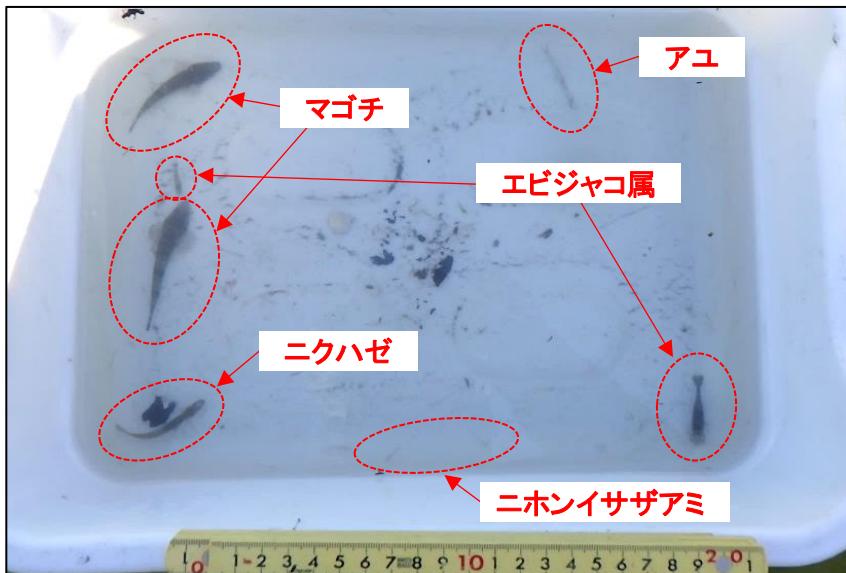
東京湾内湾に多く生息する。春から夏にかけて稚魚は干潟で成長する。成長するにつれて、ハク→オボコ→イナ→ボラ→トドと呼び名が変わる出世魚。干潟で見られるのはオボコまでのことが多い。



河口付近の干潟域に生息している小型のハゼの仲間。アナジャコ等の甲殻類の巣穴を隠れ家として利用するほか、早春には産卵場所にもしている。また、小型の甲殻類を食べる。よく似ている両種だが、チクゼンハゼは体側のはっきりした横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があることで区別できる。

名前にアミと付くが、れっきとしたエビの仲間(サクラエビ科)。内湾の河口付近を群れで遊泳する。ガラスのように透明で、尾節基部と触角が赤い。この赤い触角から、新潟県では「あかひげ」とも呼ばれている。

# 城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



ダイナンギンポ属の仔魚。東京湾では人工護岸やアマモ場等でみられる。ダイナンギンポ属にはダイナンギンポとベニツケギンポがいるが、体幹部腹側の側線によって区別できる。

※解説は葛西人工渚を参照。

※解説は葛西人工渚を参照。



内湾や河口付近の水深 30m 以浅の砂泥底に生息する。産卵期は4~7月。成長するにつれて徐々に深場へと移動する。肉食性で、小魚等を食べる。

東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂する、やや静穏な海域で見られることが多い。生時、体色が肉色をしていることが名の由来。

内湾の砂泥底に生息し、普段は砂にごく浅く潜って隠れている。環境の変化に敏感に反応して体色を変化させる。稚魚等を捕食する小型の甲殻類。